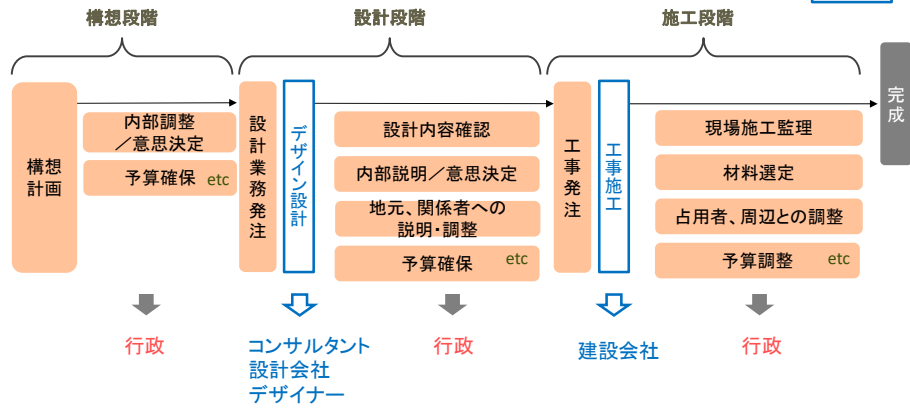


公共事業の流れと公共空間デザインにおける課題

公共事業の流れ(一例)



公共空間デザインにおける課題

- 公共事業による公共空間整備の主体は行政
- 一方でデザイン上重要となる設計段階では、設計会社へデザイン検討も含めて委託が通例
- 行政職員の設計成果の理解度が低いと、完成時の空間の質的向上に絶対につながらない

公共空間デザインにおける課題

公共空間デザインを学ぶ機会

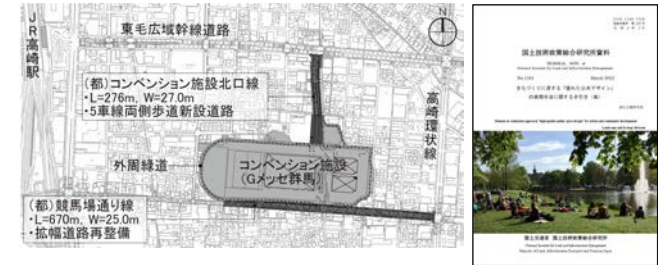
- 行政職員がデザイン設計を学ぶ研修等は実施されているが...
- 多岐にわたる行政の役割に対し、竣工までの業務調整や考え方の理解を深める機会は少ない
- 全国的にみても、行政職員のデザイン理解力と実践力を高める取り組みは少ない

今日紹介する取り組み: 群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業

- 実際の公共事業で行政職員(県)が設計段階からデザイン実践を行った事例
- 持続可能な公共空間の質的向上に向けた新たな仕組みの提案(につながらずとも...)

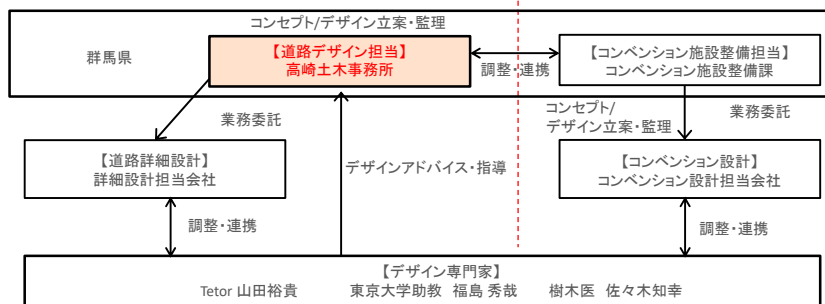
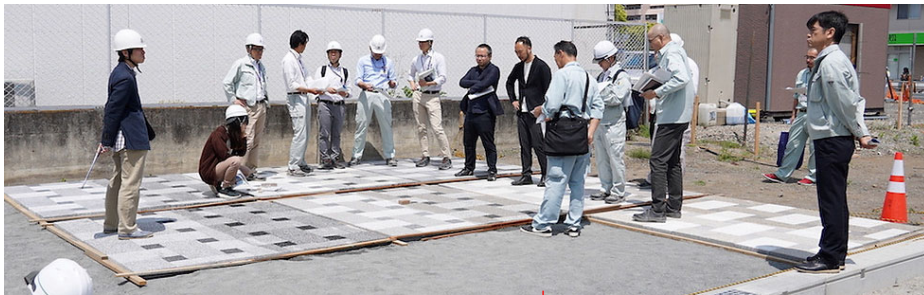
(都)コンベンション施設北口線
整備事業
(延長276m, 幅員27m)

(都)競馬場通り線再整備事業
(延長670m, 幅員25m)



出典: 国総研資料第1203号『まちづくりに資する「優れた公共デザイン」の実現手法に関する手引き(案)』2022 日本造園学会ランドスケープ作品選集2022掲載

プロジェクトの概要 - プロジェクトの体制 -



出典: 黒須克実, 福島秀哉, 山田裕貴: 持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—, 景観・デザイン研究講演集, No.16, pp.136-144, 2020.12

プロジェクトの概要 - プロジェクトのプロセス -

基本設計段階

- アドバイザーが行政職員にデザインアドバイス
- 行政職員が周辺調査、分析を実施し基本デザイン案の検討・提案

詳細設計段階

- 詳細設計方針の決定
- 行政職員、アドバイザー、関係設計会社で詳細部協議、決定

施工段階

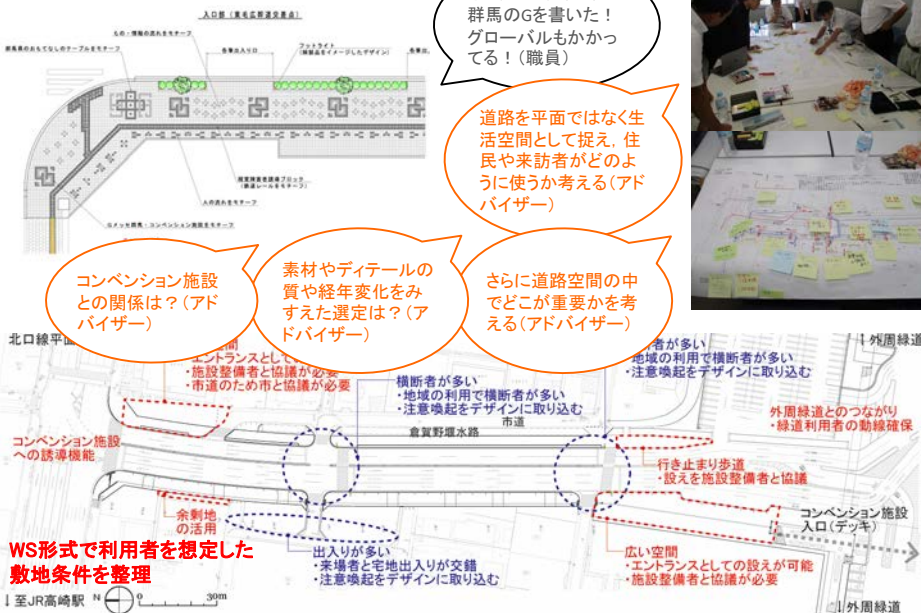
- 模型を用いた検討
- 材料選定
- 塗装色選定
- 細部の納まりの監理
- 関係機関との調整

- 職員が基本設計段階からデザイン検討
- その後のデザインに対する理解度、意識や考え方、事業の進め方に大きく影響

日時	段階	内容
2017年度 年度末		「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備事業」を立ち上げ、モデル事業として(都)コンベンション施設北口線と(都)競馬場通り線が選定される。
2018年度 6月～7月	基本設計段階	・基本デザインの検討。 ・職員が基本デザイン案を提案。 ・現地調査や分析を行い、全4回の専門家との打ち合わせを経てデザイン案を複数作成。
		・市協議 ・県庁内部協議(部長、副知事、知事)を経て、各路線の基本デザインが決まる。
基本デザイン設計案の決定		
2018年度 12月～3月	詳細設計段階	・詳細設計に向けた設計方針の検討、決定。 ・職員、専門家、関係設計会社を含めた関係者全体会議を全2回実施し、詳細デザインや構造の決定を行った。
詳細設計デザイン案の決定		
2019年度 5月～3月	施工段階	・模型を用いた検討会議 ・材料の検討、選定(歩道舗装ブロック、高木) ・塗装色の検討、選定(道路付属物、占有物) ・関係機関との協議、調整 ・各段階での現場監理を実施し、3月末に竣工した。

出典: 黒須克実, 福島秀哉, 山田裕貴: 持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—, 景観・デザイン研究講演集, No.16, pp.136-144, 2020.12

基本設計段階



出典：黒須克実、福島秀哉、山田裕貴：持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—、景観・デザイン研究講演集、No.16、pp.136-144、2020.12

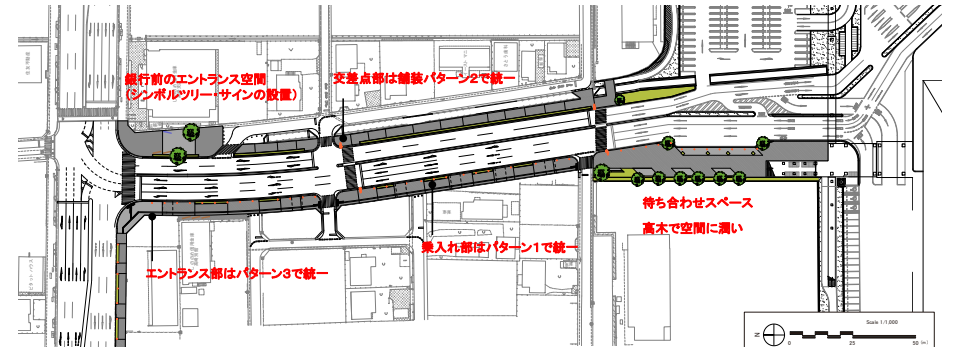
9

基本設計段階

- 施設のエントランスとして必要な要素の盛り込み
- 起点部の市道を県道化、オープンスペースを確保
- 終点部のオープンスペースに休憩施設
- 歩道舗装に意匠性の高い洗い出しブロック舗装
- 周辺住民との調整事項への対応+景観観点

⇒高木は宅地と隣接しないオープンスペースへ
⇒連続照明の光源は低い位置へ

警察との調整事項への対応+景観観点
⇒交差点注意喚起に半たわみ舗装



出典：黒須克実、福島秀哉、山田裕貴：持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—、景観・デザイン研究講演集、No.16、pp.136-144、2020.12

詳細設計段階



- ### 植栽
- 施設外構との調和
 - 施設と一体性を感じられる樹種選定
 - 経済性や維持管理性について議論、検討

- ### 街具
- 個々のデザイン性に加え、全体の一体性、機能面、利用面を考慮した詳細デザインの検討・決定

- ### 歩道舗装ブロック
- 割り付け方法を複数のパターンで図化し議論
 - 利用者の目線で図面を確認
 - ブロックの大きさの組み合わせや施工性も議論

- ### その他
- 周辺道路の構造物の色彩統一を検討
 - 占用物件との調整事項を確認

詳細部の図化や数量算出等については設計会社へ委託したものの
その検討や議論の場に行政職員が基本設計立案者として参加し全体をマネジメント

出典：黒須克実、福島秀哉、山田裕貴：持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—、景観・デザイン研究講演集、No.16、pp.136-144、2020.12

施工設計段階～関係者との協議調整～

- 設計者の立場で協議・調整
- 色彩統一や柱の集約など、景観の観点から意図を職員自らが説明
- 自らがデザイン検討した設計案として説得力のある説明



出典：黒須克実、福島秀哉、山田裕貴：持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—、景観・デザイン研究講演集、No.16、pp.136-144、2020.12

(都) コンベンション施設北口線



出典：2020年グッドデザイン賞（フットライト・ハナールホール/YF-A7140/YF-A7141）

(都) 競馬場通り線再整備事業



ぐんまフィルムコミッションへの掲載と活用事例



ぐんまフィルムコミッションは、群馬県内に放送作品を積極的に放映することにより、観光誘客の促進、地域経済の活性化、イメージアップにつなげることを目的に活動しています。

Gメッセ群馬は、11万㎡の敷地に、3万㎡の屋内外展示スペース、最大17の会議室を備えた北関東最大級のコンベンション施設です。
1万㎡の展示ホールでは、数多くの野が撮影されています。
シンプルでデザインは、撮影がしやすく、多くの制作会社様に好評をいただいています。新幹線が停まる高崎駅からのアクセスも良く（徒歩15分）、エキストラを募集した撮影にも適しています。地域住民や他の利用者に迷惑のからぬ範囲でご利用いただくことができます。



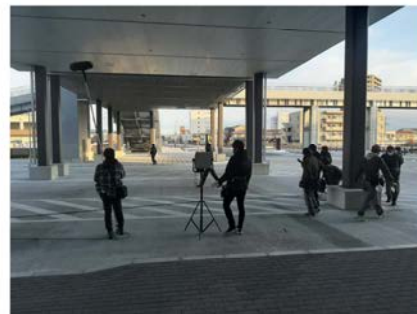
映画撮影で利用されたことのお知らせ様式

【2020/12/18公開】劇場版映画ライダーゼロワン REAL×11WがGメッセ群馬で撮影！
『劇場版 仮面ライダーゼロワン REAL×11W』は、Gメッセ群馬の立体駐車場やコンベンション施設北口線で撮影が行われました。コンベンション施設北口線では、ライダー5人が同時に変身する貴重なシーンが撮影されました。是非劇場でご覧ください。

【作品名】『劇場版 仮面ライダーゼロワン 不死鳥の騎士と極悪の軍』
『劇場版 仮面ライダーゼロワン REAL×11W』

【公開日】12月18日（金）

【HP】 <http://kamenrider-winter.com/>



撮影作品一覧

作品	種別	放送局等	出演者	放映日
仮面ライダーセイバー	ドラマ	テレビ朝日	内藤秀一郎	2021年
仮面ライダーゼロワン	ドラマ	テレビ朝日	高橋文哉	2020年

街路デザインのすすめ

職員の理解と技術向上

- デザイン検討から主体的に行うことで、景観デザインに対する理解度が向上
- 自らがデザイン検討・設計を行ったため、その意図や狙いを十分理解し、実現に向けて必要な協議や調整を前向きに行えた(説得力のある説明ができた)
- 行政が重視する観点(経済性・維持管理性)と景観デザイン性の観点のバランス感覚を会得
- 施工時、全体デザインや施工性、現場状況を考慮した総合的な判断力が身につく

職員の気づき・学び

- デザイン性、経済性(短期のみならず長期も)、施工性など複数の観点からのバランスが重要
- 設計後に必ず設計通りできない場面が出てくるが、デザイン検討段階に立ち返って考えることで質の担保につながる

行政職員の講演・受賞多数

- 黒須克典「Gメッセ群馬」周辺におけるぐんまの風景を魅せるインフラ整備の取り組みについて(平成30年度創意工夫発表会、群馬県土整備部、最優秀賞)
- 黒須克典 行政職員が行った道路空間の質的向上を目指す「景観デザイン」について(令和2年度スキルアップセミナー「関東行政マネジメント」部門優秀賞)
- 黒須克典、福島秀哉、山田裕貴「持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—(景観・デザイン研究発表会2020優秀講演賞)」

まとめ

- 本取り組みのように、基本設計段階からの行政職員のデザイン実践は十分可能
- その後の詳細設計、施工段階での公共空間の質的向上に非常に効果的
- このような実践的取り組みの広がりが行政職員の主体性を喚起、持続可能な公共空間の向上に寄与する

- 公共空間デザイン整備における技術者と行政の新たな業務体系として提案できるのでは？
- デザイン技術者等に行政職員の景観検討に対するアドバイザー業務を委託することが可能と考える(大学等で行政職員教育に関わる技術者多)
- 行政職員の主体性を喚起する業務体系が公共空間の質を向上させる(win-win)!

出典：黒須克典、福島秀哉、山田裕貴：持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—、景観・デザイン研究発表会、No.16、pp.136-144、2020.12